

施策番号	333	施策名	青少年の健全育成	主管課名	生涯学習課
総合計画 体系	政策名	3	創造豊かな教育・文化の里づくり	令和 2 年度課長名	黒瀬 豊
	関係課名			シート作成者	岩谷 理恵子

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア	町内の未成年者	→	ア	人	見込値			2,220	2,100	2,100
						実績値	2,119	1,864	2,052	
イ		→	イ		見込値					
						実績値				
ウ		→	ウ		見込値					
						実績値				
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア	心豊かにたくましく育てもらう	→	ア	人	目標値	4	3	3	2	1
					実績値	0	1	2		
					達成率	100.0%	300.0%	150.0%	100.0%	50.0%
イ	健全な育成を図る	→	イ	件	目標値	8	7	7	6	5
					実績値	0	8	4		
					達成率	100.0%	87.5%	175.0%	150.0%	125.0%
ウ	青少年が健全に育っていると 感じる町民の割合	→	ウ	%	目標値	55.0	55.0	60.0	60.0	60.5
					実績値	58.4	64.9	66.7		
					達成率	106.2%	118.0%	111.2%	111.2%	110.2%
エ		→	エ		目標値					
					実績値					
					達成率					
⑤ 成果指標 設定の考え方	青少年が健全に育成されているかを測るための非行少年の数、不良行為の件数を指標とした。また、住民意識調査の直接の諮問である項目を指標とした。			⑥ 成果指標の 把握方法と 算定式等	ア、イ 津山警察署資料 ウ 町民アンケート(対象者1,000人中481人が回答)					

2. 施策の役割分担

	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
施策成果向上 に向けた 住民と行政との 役割分担	保護者・家庭は、子ども達へ社会生活の基本を身につけさせること及び自立を促す。地域は、子どもたちの見守り、地域活動への参加の呼びかけを行う。	行政は、地域・各種団体との連絡会議を開催し健全育成ネットワークの構築と、青少年の健全育成につながる講演会を開催する。また、公民館活動などにおいて青少年が参加できるプログラムの実施を目指す。

3. 評価結果

1. 施策の成果水準とその背景・要因	
2 年度 の 評価結果	① 成果指標の時系列比較 (成果は向上したか? 低下したか? 要因は?) 地域住民による小学校の登下校の見守りが行われるなど、安全安心のための活動が広がっている成果と思われる。学校支援地域本部事業等の取組により学校と地域との連携が増え、地域の中で子どもたちの成長に対する意識が高まっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 向上した <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない <input type="checkbox"/> 低下した
	② 他団体との比較 (近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?) 中高年を対象として鏡野中学校において「シニアスクール」を実施している。これは学ぶ姿を中学生に感じとってもらい、学習に繋げることを目的としている。また、小学5・6年生を対象とした通学合宿「いきいき生活体験宿」は合宿を通じて、基本的な生活習慣を身につけることと、自立心や協調性、集団生活への対応を図ることを目的としているほかに親への感謝の気持ちを感じることも目的としている。(令和2年度はコロナ禍により中止) 学校支援地域本部事業等の取組により、学校と地域とが連携し、地域ぐるみで子どもたちを見守り育てる活動が行われている。 <input type="checkbox"/> 高い水準 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準
	③ 住民の期待水準との比較 (住民の期待よりも高い水準か、低い水準か、どんな意見や要望が寄せられているか?) 新型コロナウイルス感染症の影響で民間の講座が中止となり、地域での活動や公民館講座に申し込みが増えた反面、利用者数の制限をする必要があったが子どもたちの成長を促す施策はあり、一定の成果を生んでいると考えられるが、小学生を対象としたものが多く、中学生以上を対象とする機会及び利用も少なく効果的な手段を講じにくいのも実情である。住民の意見は少ないが、健全に育ててもらいたいという意見もある。 <input type="checkbox"/> 高い水準 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準
2. 施策の成果実績に対する 2 年度の取組や目標達成度	
■ 2 年度の主な取組の成果(改革改善した取組、目標の達成度は?) 小学5・6年生を対象とした通学合宿「いきいき生活体験宿」はコロナ禍の影響により中止。シニアスクールは2学期からの開催。学校支援地域本部事業として、小・中学校合わせて7校が取り組み、地域と学校とが連携しやすい環境ができつつある。家庭共育支援チーム「ぼちぼち」を定期的に開催し地域からの相談窓口として活動している。 <input type="checkbox"/> 目標値以上 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおり <input type="checkbox"/> 目標値以下	
3. 施策の今後の課題と改革改善の方向 (うまくいかなかった取組や事務事業は? その原因は?)	
かがみのつ子表彰は、地域からの推薦という事業の趣旨に沿った推薦が少なく、保護者からの推薦が多い。コロナ禍により表彰式は各小学校で開催した結果、ほぼ対象者全員が式に参加することができた。今後の開催方法については検討が必要である。青少年健全育成について、様々な事業に取り組んでいる。参加する保護者、地域の人も毎年高い水準で推移しているが、活動に参加できない子どもや保護者に対する参加の働きかけや、家庭共育支援チームの活動を継続していくことが必要である。中学生海外体験事業は、学校職員の協力が不可欠ではあるが全体的に協力体制の見直しを図る必要がある。また、新様式での交流を図るため学校等との調整が不可欠となる。	